

# ニューズレター



展示室「つながりんぐ」より(イラスト:永田 信行)



## CONTENTS

- 展示室改修 ..... P2~P3
- モニ1000シンポジウム ..... P4
- 国際会合等 ..... P5
- 自然環境保全基礎調査 ..... P6~P7
- いきものみつけ ..... P8
- モニ1000ホームページリニューアル P8
- センターの出来事 ..... P9
- JICA研修・NORNAC ..... P10
- 標本の紹介(第18回) ..... P11

### 生物多様性センター展示室をリニューアル!

生物多様性センターの展示室は、生物多様性とその保全の大切さを一人でも多くの方に理解していただき、行動に移していただくための情報提供の場です。生物多様性センターが開所してからこの10年間、「生物多様性国家戦略」の見直しや「生物多様性基本法」の施行、各種調査結果や生物多様性センターの各種調査や事業が実施され、皆様にお知らせしたい事が増えました。

今回のリニューアルでは、新しい情報を追加し、生物多様性について、動かす・触る・探す・クイズを解くといった参加する形で親しみ、理解していただけるような展示にしました。



## リニューアルした展示の紹介をいたします!

生物多様性について知っていただくことが第一目標の生物多様性センター展示室ですが、今回のリニューアルでも、「生物多様性」についてどのように理解していただき、親しんでいただくかが大きな課題でした。「生物多様性」という言葉とその意味は、今年が国際生物多様性年であること、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が、

10月に名古屋で開催されることにより、従来よりもずっと新聞などで皆さんの目に触れられるようになりました。しかし、まだまだ一般的にはなじみの薄い言葉で、5文字熟語という字面の堅さも、敬遠される要因の1つです。

では、新しくした展示の観点や特徴を紹介いたします。

生物多様性ってどんなこと? 「生物多様性」には、具体的に①生態系の多様性、②種の多様性、③遺伝子の多様性という3つのレベルの多様性があります。一見難しそうなこの言葉と3つのレベルを、クイズ形式でわかりやすく説明しています。また、私たちの生活が様々な生きものの恵みによって成立

していることと、この恵み「生態系サービス」についてのオトクな情報を紹介しています。更にこの展示の脇には「引き出しパネル」があり、生物多様性や生態系サービスについての詳細説明が読めるようになっています。



みんな にほんのなかま: 日本各地に住んでいる動物29種のぬいぐるみを展示しています。ぬいぐるみにはタグが付けてあり、「高山」「森」「水の中」「水辺」「海辺」と住んでいる環境による色分けと自己紹介が書いてあります。そして、ぬいぐるみは、背景に住んでいる環境を描いた棚に置いてあります。

ぬいぐるみを手に取り、動物の形(毛、羽根、水かき、ヒレ)をみたり、タグを読んでもらい、住んでいる環境をみてもらうことで、生態系ごとに生息する種の違いについて、小学校低学年から楽しんでもらえるコーナーになっています。(にほんのなかま写真)

つながりんぐ: 日本列島の生物多様性のつながりを表現した縦1.55m横12mの絵巻です。北海道から沖縄までの300種以上の動植物を、「北海道の生物多様性」「本州・四国の生物多様性」「琉球弧の生物多様性」というパネル全体の大きな繋がりから、砂地に生えるハマナス、クルマを食べるエゾリス、富士山麓のマメザクラ等、小さな繋がり

まで表現しています。また、人の生活と生態系の繋がりとして、名古屋港と藤前干潟、カボチャを盗っていく安曇野のサル等、日本各地の風景・風物も描かれています。著名人が自然の大切さ、生物多様性について語ったメッセージも掲示しています。イラストレーターの永田信行氏と日本各地のビジターセンター等のご協力により実現しました。



生物多様性4つの危機: 現在、世界中で生物の多様性が危機に瀕しています。日本での主な原因は「開発・乱獲」「人間活動の縮小」「外来種」です。「地球温暖化」による世界的な危機も大きな問題です。それぞれの危機の内容・状況と、生物多様性の危機に直面している動植物たちの「困った」を、

パネル紹介しています。生きものたちの声に耳を傾けてみてください(4つの危機パネルのうち一部の写真)。

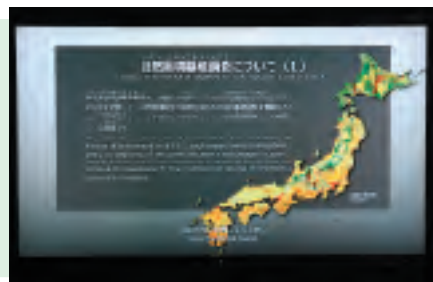
いきものつながりフィールド: 生物多様性4つの危機パネルの間にある、生きものどうしのつながりや、住んでいる環境とのつながりについて考えるゲームです。他の生きものとの関係や住みかを考えながら生きものを当てるクイズと、生物多様性の4つの危機から環境を守るクイズの2部構成にな

っています。あなたは生きものたちの住みかを守るができるでしょうか。ぜひ挑戦してみてください。

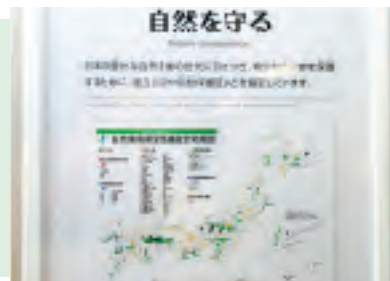




ジオグラフィックデータベース:日本地図上に、生物多様性センターでこれまでに行った調査の結果を表示します。動物分布の調査結果では、複数回にわたる調査結果の比較を紹介しています。



生物多様性を守るために:生物多様性を守るために行われている環境省の取り組みや生物多様性センターの事業、日本各地の地方公共団体や地域・民間の活動等を紹介したパネル展示です。その他、「ひとりひとりの取り組み」として私たちにできる取り組みのヒントが紹介されています。



生態系家族日記:身近にある生態系サービスを実感していただく展示です。日々の生態系サービス(「羊から毛糸の恵み」「山の中は夏でも涼しい」等)を、一家の日記形式で紹介しています。併設している手のひらメッセージでは、生物多様性のコミュニケーションワード「地球のいのち、つないでい

こう」を手のひらに受け止める仕掛けになっています。

煌・進化そして多様性:生物多様性センター玄関にあるガラスレリーフ「煌・進化そして多様性」のライティングの改良と解説の追加をしました。3方向からのLED照明によるライティングにより、従来よりもレリーフの細部が浮き出るようにしました。解説では、生物の40億年の進化の繋がり、絶滅してし

まった動植物から現存する動植物の繋がりをたどれるよう、レリーフ上の生きもののグループ(界)の位置とグループの説明をしています。



つながりの木:生きものスタンプを使って自分のカードを作成し、自然を守るために自分で行動してみようと考えたことを書いて、つながりの木に吊るす参加型展示です。展示室の出口に設置してあります。「いきものつながりフィールド」での「生物多様性4つの危機から環境を守るクイズ」の解答や、「生

物多様性を守る」のコーナーで紹介した様々な活動例も参考にして、行動してみたいことをぜひ書いて吊して下さい。

情報検索コーナー:生物多様性センターや環境省がホームページ上で提供している各種情報を閲覧できます。何を検索したら良いのかわからないという方のために「簡単検索」メニューもあります。簡単検索メニューでは、トピックスとして選んだページ約20項目を直接閲覧できるようにしてあります。



このように、リニューアルした展示室の展示は、お子様から大人の方まで楽しめる工夫が満載です。5月からは休日開館もスタートします。みなさまのご来館をお待ちしています。

- 開館時間/9:00~17:00 ● 入館料/無料
- 休館日/冬期間(11月~4月)の土・日・祝日、年末年始(12月28日~1月4日)



# モニタリングサイト1000 シンポジウムを開催しました

Since 2003

## 1 開催の目的

平成22年1月30日に、東京都港区・三田の笹川記念会館において、生物多様性センター主催による「モニタリングサイト1000シンポジウム」を開催しました。

このシンポジウムは、現地でモニタリングサイト1000の調査を実施されている「現地調査主体」の方々や、地方公共団体の自然環境保全担当者の方々をはじめ、自然環境に興味をお持ちの一般の方々、CSR（企業の社会的責任）担当の民間企業の方々など、幅広い方々を対象として、モ

ニタリングサイト1000各調査分野の現在の調査実施状況及び今後の課題等について共有することを目的として実施しました。

モニタリングサイト1000は、長期に渡って日本の生態系をモニタリングしていくものであり、たくさんの方々に関わっていただくことで、継続した調査を実施することが可能となります。そのため、こうした取り組みにより、様々な方々と情報を共有していくことが重要です。

## 2 開催結果報告

シンポジウムでは、生物多様性センター長の主催者あいさつの後、モニタリングサイト1000の担当科長から「モニタリングサイト1000について」と題して、この事業の概要についての説明を行いました。日本国内においては、トキに代表される「開発・乱獲による危機」、カタクリやギフチョウに代表される「里地里山など、人間活動の縮小による危機」、ブラックバスやミシシippアカミガメに代表される「外来種による危機」、サンゴの白化に代表される「地球温暖化による危機」という、生物多様性に対する4つの危機があり、これらの危機の現状を把握する手段として、モニタリングサイト1000を実施するという趣旨を紹介しました。

次に、11種類ある各生態系調査分野の取りまとめを実施している7つの「調査団体」から、各調査の概要と現在の進捗状況についての発表を行いました。これにより、モニタリングサイト1000各生態系の調査の現状を共有することができました。

その後、「調査現場からの声」と題して、大分県・久住のサイトで里地調査を担当されている、特定非営利活動法人おおいた生物多様性保全センター代表の足立高行さん、愛知県・渥美半島（表浜）のサイトでウミガメ調査を担当されている特定非営利活動法人表浜ネットワーク代表理事の田中雄二さん、青森県・下北半島（大湊）のサイトでガンカモ類調査を担当されている日本野鳥の会青森支部 下北野鳥の会・日本白鳥の会理事の阿部誠一さん、千葉県の九十九里浜（銚子方面）のサイトでシギ・チドリ類調査を担当されている日本鳥学会の奴賀俊光さんをお呼びして、パネルディスカッションを行いました。

パネルディスカッションでは、調査を始めたきっかけについてパネリストのみなさんからお話をいただいたあと、「データを使った保全の話」をテーマとして、田中さんと奴賀さんからお話をいただきました。続けて、「組織作り・後継者作り」をテーマとして、阿部さんと足立さんからお話をいただきました。このパネルディスカッションを通じて、現場でのご苦労もありながら調査を継続されている方々の熱意を感じることができました。

シンポジウムの当日の参加者数は計164名と、盛況でした。会場からの質問も活発に行われ、モニタリングサイト1000事業の内容についての理解を深めていただくよい機会となりました。



講演の様子

## 地球規模での生物多様性モニタリング体制の構築に向けて

### 1 開催の目的

生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)開催年であり、国際生物多様性年である今年(2010年)に繋げるため、昨年12月に、生物多様性に関する2つの国際会合が開催されました。

12月10・11日には「アジア太平洋生物多様性観測ネットワーク(Asia Pacific-Biodiversity Observation Network以下、AP-BON)推進のための国際会議」が開催されました。AP-BONとは、国際的な生物多様性観測のための枠組み(GEO-BON《地球観測グループ 生物多様性観測ネットワーク》、ILTER《国際長期生態学研究ネットワーク》等)との協力のもと、生物多様性観測のネットワーク構築を促進するとともに、データの収集、分析及び統合化を推進し、生物多様性の変化を的確に把握し、評価することで、地球規模での生物多様性保全に貢献し

ようとする研究者主導のプロジェクトです。12月の会合では、AP-BONの運営体制、COP10及び2011-2015年に向けた具体的な作業計画を合意しました。

12月12・13・14日には「東・東南アジア生物多様性情報イニシアティブ(East and Southeast Asia Biodiversity Information Initiative)事業(以下、ESABII)政府間会合」が開催されました。ESABIIとは、これらの地域の国々、関係機関の参加のもと、生物多様性条約の履行、各国の生物多様性国家戦略の策定・見直し、様々な保全施策等に直ちに利用することができる生物多様性情報の整備、生物多様性保全に必要な分類学の能力向上のためのプログラムの実施を推進する国際協力プロジェクトです。12月の会合では、参加国・機関によるESABII推進のための戦略及び2010-2011年作業計画を合意しました。

### 2 開催結果報告

2つの会合とも、東京都渋谷区にある国連大学のエリザベス・ローズ国際会議場で開催されました。

「AP-BON推進のための国際会議」には一般参加者を含め、アジア太平洋地域の15カ国、4つの国際機関から合計70名が参加しました。AP-BONの運営体制が決定され、COP10に向けての活動計画として①アジア太平洋における生物多様性観測の概況についてまとめ、印刷物として出版すること、②生物多様性に関するデータのデポジットシステムを構築すること、が決定されました。

「ESABII政府間会合」には、東・東南アジア地域の12カ

国が参加しました。ESABII推進のため、①ESABII活動実施・運営のための体制構築、②生物多様性情報の整備、③分類学の能力向上の成果目標を含む戦略が合意されました。また、この戦略を履行するため、ESABIIホームページの作成、保全施策実施にあたってニーズの高い生物多様性情報の作成、分類学能力を向上させるための研修の実施等の2011年と2012年の具体的な作業計画についても合意がなされました。わが国の環境省生物多様性センターは暫定事務局となり、生物多様性情報の整備についても具体的な作業を行うこととなり、ESABIIの中で大きな役割を果たす事となりました。

### 3 今後の展開

AP-BON、ESABII共に今回行われた会合で運営体制と活動計画が定まりました。今後はそれぞれの活動計

画の実施し、アジア太平洋地域の生物多様性保全と生物多様性条約への貢献を進めていきます。



ESABII 政府間会合



ESABII 集合写真



## 自然環境保全基礎調査の動き

### 1 植生調査の成果

環境省では、2000(平成12)年度より縮尺2万5千分の1植生図の整備を行っており、今年度末には全国の約50%の地域の植生図整備が進捗することになります。(図1)関東地方や九州地方等では広域での植生図整備が進んでいますので、地域的な生物多様性評価等への利用が期待されます。なお、昨年度までに整備済みの植生図及びGISデータについては、「植生調査情報提供HP(<http://www.vegetation.jp/>)」にて閲覧・ダウンロードができます。

さて、植生調査では植生図だけを作成しているわけではありません。植生図を作成する際に、詳細な現地調査に基づく植生調査データ(組成データ)を取得しています。図2は植生調査票の抜粋です。一見すると複雑なデータのように見えますが、簡単に言えば「どのような植物がどのような密度で生育しているか」を記録しているものです。植生調査では、今年度までに全国約12000箇所もの組成データが収集されており、これらは我が国の生物多様性に関する重要な基礎情報となりつつあります。

図2 組成調査票(抜粋)

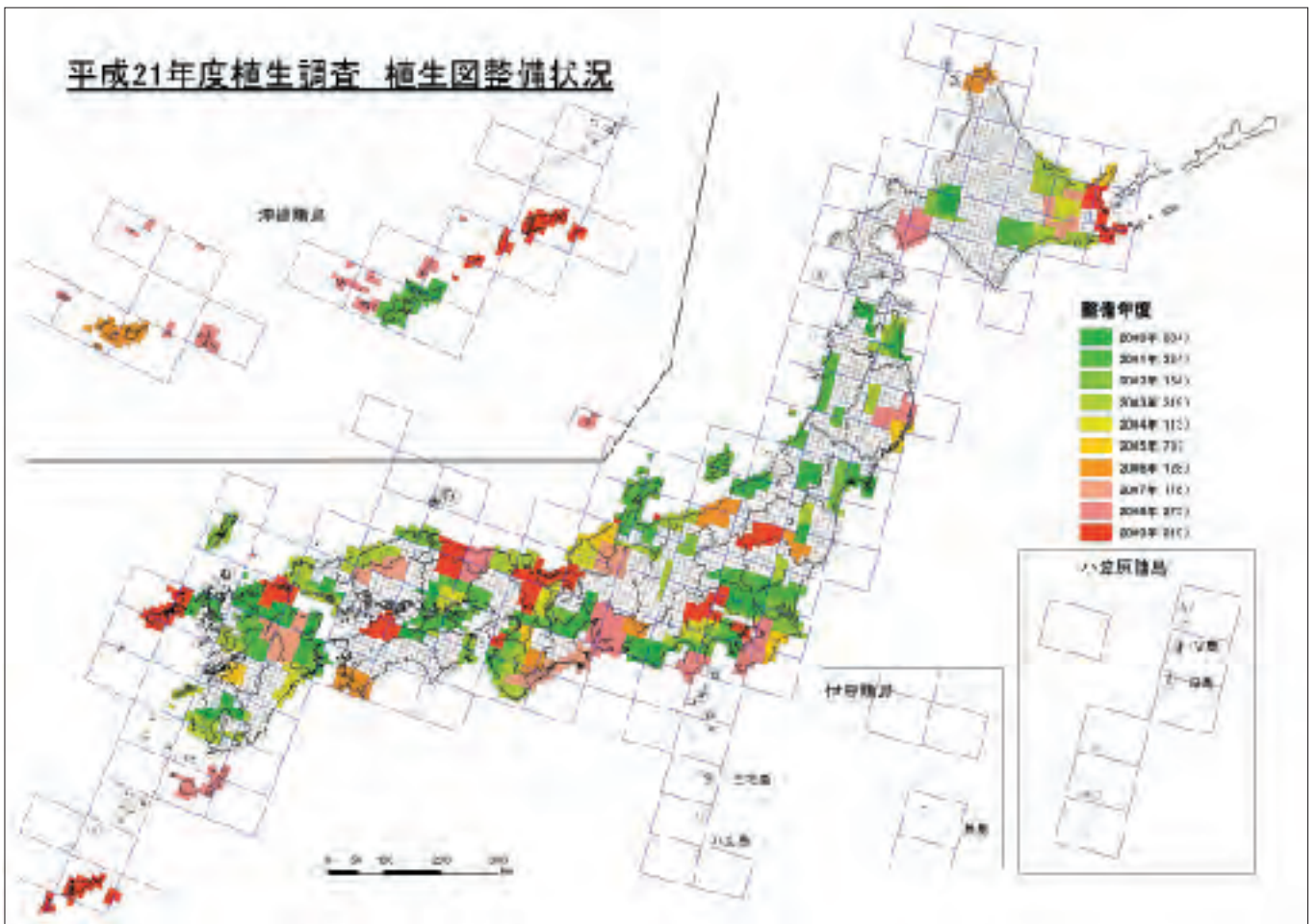


図1 植物図鑑整備状況

## 2 「日本の動物分布図集」の製作

環境省では、1978(昭和53)年度から約30年間にわたり、日本に生息する野生生物(哺乳類・鳥類・両生類・爬虫類・淡水魚類・昆虫類・陸産・淡水産貝類等)の分布を把握する調査を実施してきました。分布調査は、複数時期で調査を行いそれらの結果を比較することにより、その生物の動向に関する基礎情報を把握することができます。近年ではニホンジカによる農林業被害や生態系被害が全国的に増加していますが、1978年と2003年の分布調査結果を比較することで、分布域が増加していることを読み取ることができます(図1)。しかし、これらの分布調査の結果は対象種や調査年度が多岐にわたっていたことから、複雑で分かりにくい部分がありました。

今年は国連が定める「国際生物多様性年」ですし、名古屋で生物多様性条約締約国会議(COP10)が開催されることから、生物多様性を考えるためには重要な年です。この機会にこれまでの分布調査で得られた情報をとりまとめ、わが国の野生動物に関する基礎資料として分かりやすく提示することを目的として、「日本の動物分布図集」の作成を行っています。この分布図集に掲載される種は、我が国に生息する動物(約2800種)を対象としており、これまでの動物分布調査を総合的にとりまとめた内容となっています。「日本の動物分布図集」の公開は平成22年度前半を予定していますので、もうしばらくお待ちください。

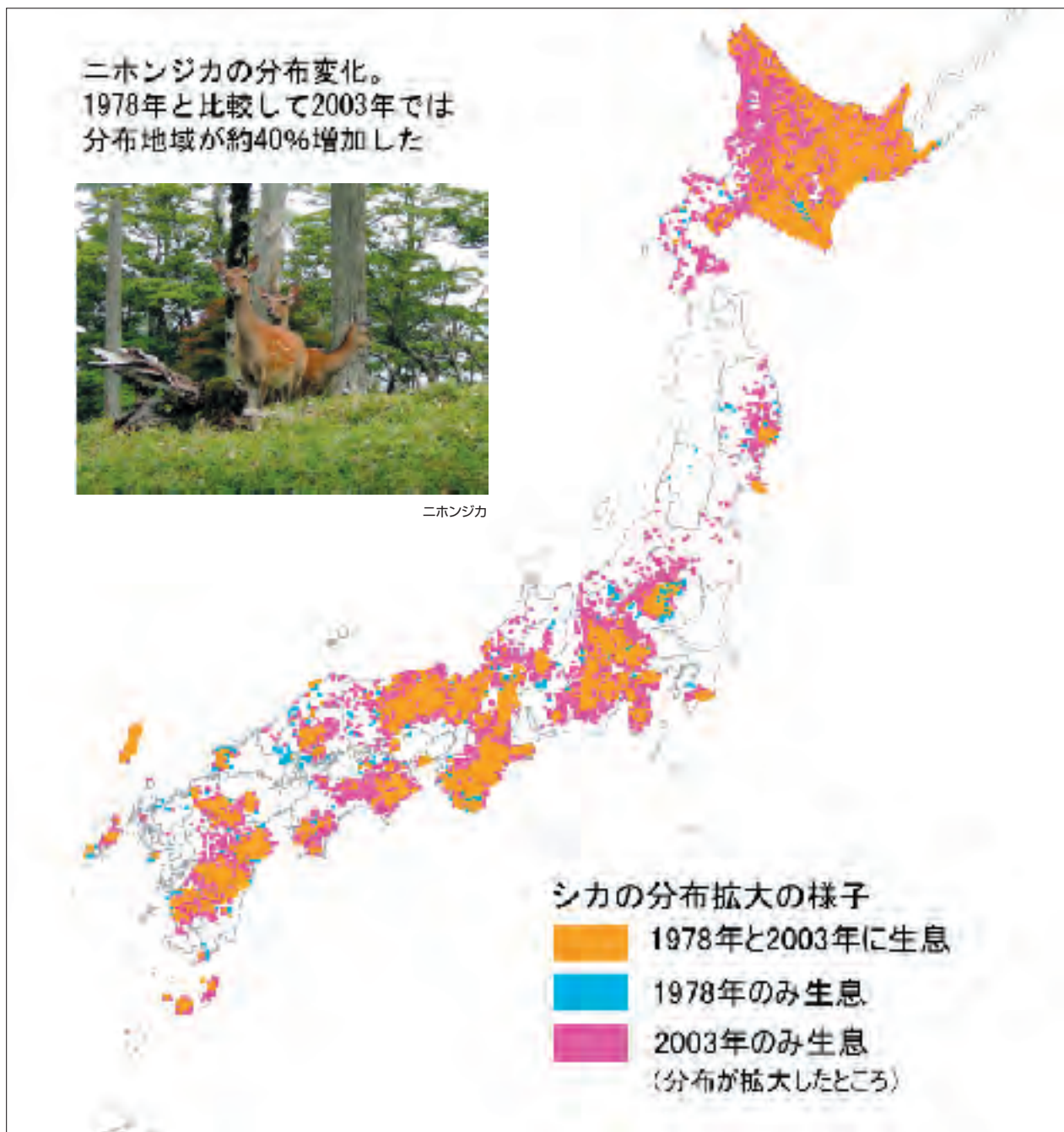


図1 シカの分布変化





## いきものみつけ 2010年いきものみつけ



2008年度に始まった「いきものみつけ」は、2010年度に最終年度を迎えます。

2010年のいきものみつけでは、春・夏調査あわせて計27種の生き物の情報を集めています。この春の調査ではソメイヨシノ、ホトケノザなどの花や、ツバメの子育て、ツマグロヒョウモン、ベニシジミなど様々な

生き物を対象としていますので、見つけたらホームページ (<http://www.mikke.go.jp/>) から情報をお送りください！ 皆様からの一つ一つのみつけ情報が、いきもの地図を作

成する上で貴重なデータとなりますので、是非ご参加協力をお願いいたします。

また2010年の調査開始にあわせて、いきものみつけ手帖を改訂しました。対象種の観察ポイントに補足を加えたり、「生物多様性ページ」をイラストや事例を交えてより充実した内容に変更しました。自然観察会や学校の授業などでご利用いただける方は、下記のいきものみつけ事務局までご連絡ください。

いきものみつけ事務局の連絡先:

03-5719-3715 / info@mikke.go.jp

(送料はご負担いただいております。ただし、10冊以上のご請求の場合は送料無料でお送りさせていただきます)



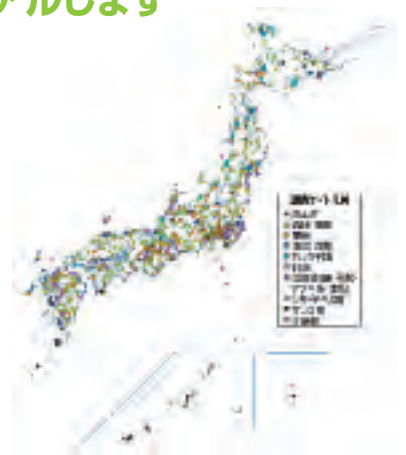
「いきものみつけ手帖」より



## モニタリングサイト1000 ホームページをリニューアルします

調査でとらえた自然環境の変化を有効な保全対策につなげていくためには、なによりもまず収集された情報を公開し、関係者はもちろん、多くの人々にその事実を伝え、理解していただく事が重要です。これまで、モニタリングサイト1000事業では、ホームページを通じて事業概要、サイトの配置、結果の速報や調査方法のマニュアルを公開してきました。本事業も調査開始から7年目を迎え、多くの調査データや解析結果が蓄積されつつあります。調査データの公開に際しては、希少な生物種の乱獲や盗掘を防ぐため、その位置情報を保護したり、調査データを利用するためのルールを整備したり、様々な課題がありますが、一部の生態系では公開するための環境が整いつつあります。事業

開始当初からスタートした森林・草原分野については、近く調査データの公開を予定しており、これに対応するためモニタリングサイト1000のホームページをリニューアルすることになりました。今後、その他の生態系についても公開可能な調査データや報告書を順次公開していく予定です。



モニタリングサイト一覧



## センターの出来事

### 1 第41回 ガンカモ類の生息調査を行いました

毎年1月に全都道府県のご協力により実施している「ガンカモ類の生息調査(通称「ガンカモ調査」)」は、本年度で41回目を迎えました。本年も、1月10日を一齐調査日、3日～17日を予備日とし、全国各地で一斉に実施されています。調査結果は、現在当センターにて集計・精査中で、4月中を目途に記者発表やホームページで公開する予定です。

当センターのガンカモ調査担当者は、1月15日に、地元山梨県が実施する富士五湖の調査に昨年引き続き同行しました。当日は快晴で、河口湖には逆さ富士が写る調査日和となりました。調査員は長年本調査に参加されている地元の野鳥の会の方と地元の動物カメラマンの方で、県職員の方が運転する車に乗って湖辺の道路を周回しながらガンカモ類を計数し、ガンカモ類が多いポイントでは下車してスコープを使いながら計数しました。河口湖では、合計約880羽が観察されマガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ等が主体を占めていました。山中湖やそのほかの富士五湖全域で捉えると、昨年に比べ、ガンカモ類の総数には大きな

変化はないようです。

センター担当者の個人的ハイライトは、雄の顔が白黒なことから通称パンダガモと呼ばれるミコアイサが、餌をとるために素早く水面に潜る様子を間近で見ることができたことでした。皆さんも是非お近くの渡来地に出かけてみて下さい。



1月15日河口湖での調査の様子

### 2 浜松モザイクカルチャー世界博2009に出展しました

平成21年10月7日から10月13日の一週間、静岡県浜松市で開催されていた「浜松モザイクカルチャー世界博2009」において、生物多様性に関するパネル展示を行ないました。連休だった10月10日と11日には職員もかけつけ、生物多様性クイズラリーと身近なところで見られる昆虫たちを集めた

標本展示や顕微鏡観察を行い、2日間で延べ5000人以上の方々にご来場いただき、盛り上がりました。遠方でのイベント出展は初めての試みでしたが、より多くの方々に生物多様性について知っていただける、良い機会となりました



昆虫標本の展示



実際に手で触れて学ぶことのできる展示も設置しました。

## 平成21年度JICA生物多様性情報システム研修を受け入れました

平成21年8月から10月まで、国際協力機構(JICA)の「生物多様性情報システム研修」が行われました。研修生は9名、出身国はタンザニア、ブルキナファソ、アルゼンチン、ブラジル、サモア、マレーシア、インドネシアの7カ国です。研修の課題は「生物多様性に関するデータをどのように収集するのか、データベースをどのように構築するのか」という点です。

生物多様性センターの講義は9月24日から28日に行われ、生物多様性情報の整備・運用、システムの開発・導入について学びました。その他の研修地では、日本の自然環境行政の施策、ラジオトレッキングやGPS、GISソフトを使用した技術的な講習も受けました。

生物多様性情報に関して、政策の進め方から実際デー

タ収集をする講義まで、幅広い研修となりましたが、研修生はどの講義にも真剣に取り組み、講師への質問はもちろん、研修生同士考え方を理解し合おうと、意見交換が頻繁に行われました。バックグラウンドの違う者同士、お互いの立場を理解することが難しいときもあれば、違うからこそ思いもよらない発見があるという楽しみもありました。

講義や意見交換を経て作成されたアクションプランでは、情報公開する際のターゲットを誰に絞るのか、サーバー等の機材、システム構築のための人材にどれだけの予算が必要になるか等、具体的な案を盛り込んだものに仕上がりました。生物多様性情報のあり方を考えなければならないセンター職員にとっても実りの多い研修となりました。



酪農学園大学での講義の様子



集合写真・富士山五合目にて

## 第12回自然系調査研究機関連絡会議(NORNAC) 調査研究・事例発表会の開催(平成21年11月16日~11月17日)

第12回自然系調査研究機関連絡会議(以下、「NORNAC」)及び調査研究・活動事例発表会が神奈川県自然環境保全センターと生物多様性センターの共催により、神奈川県伊勢原市及び厚木市において開催されました。

1日目の調査研究・事例発表会では、19機関から23題の活動事例発表があり、全国各地からNORNAC構成機関のほか、都道府県の自然保護担当者や行政機関関係者、研究者、地元の市民等、約100名が参加し、調査研究に係る情報交換を行いました。

今回の事例発表会では、従来の口頭発表に加えて、新たにポスターによる発表を行いました。参加者からは、「限られた時間のなかで多くの事例がみられた」「興味のある発表について踏み込んで質問できた」等の感想があった他、「もう少しポスター発表会の比率を上げたらどうか」「ポスター発表のコアタイムが短い」等の意見が出ました。

2日目はNORNAC構成機関による連絡会議を開催しました。連絡会議には、NORNAC構成団体のほか、オブザ

ーバーとして都道府県自然環境行政担当者等あわせて約50名が出席し、今後のNORNACの活性化を図るための活発な意見交換が行われました。



調査研究・事例発表会の様子

平成22年度の「第13回自然系調査研究機関連絡会議」は、愛知県環境調査センター、名古屋市環境科学研究所及び環境省生物多様性センターの共催を予定しております。

NORNACの詳細及び会議開催内容については、下記ホームページをご覧ください。

([http://www.biodic.go.jp/relatedinst/rinst\\_main.html](http://www.biodic.go.jp/relatedinst/rinst_main.html))



## 多様性センターに収蔵している標本の紹介 第18回



和名／ギフチョウ

RDBカテゴリー／絶滅危惧Ⅱ類(VU)

学名／*Luehdorfia japonica*

分類／チョウ目アゲハチョウ科



## 日本固有種

ギフチョウはギフチョウ属に分類される、小型のアゲハチョウです。古い別名に「だんだらちょう」という呼び方があったように、成虫のはねには、黒と黄色の縞(だんだら)模様があり、後ろばねにはオレンジ・青・赤の斑紋が配された美しい姿をしています。ギフチョウの仲間、近縁な種が日本に1種、東アジアに3種が分布していますが、ギフチョウは日本の本州にのみ分布する日本の固有種です。因みにギフチョウという和名は「岐阜蝶」の意味で、これは最初に発見された岐阜県にちなんで名づけられたといわれています。



## 春の女神はサクラとともに？

ギフチョウの成虫は年1回、ヤマザクラが咲くころに羽化してかわいらしい姿を見せることから「春の女神」と形容されることがあります。ヤマザクラの開花期に羽化期が一致している場所もあり、サクラの開花前線とともに羽化が北上しているようにいわれますが、じつはヤマザクラの開花とギフチョウの羽化は必ずとも一致しておらず、むしろ食草となるカンアオイの発芽時期にあわせているとも言われています。さすがの春の女神も、花より団子…なのかもしれません。



## 減少がすすむ生息環境

ギフチョウの主な生息地は、下草や下枝があまり茂っていない、コナラやクスギなどからなる雑木林などです。この林には林内にまで陽の光が差し込み、成虫が蜜を吸うためのカタクリやスミレ類が豊富にあります。幼虫の食草となるカンアオイの仲間もこういった林の日陰の部分又好む植物です。

このような林は古くから里地や里山の環境でマキや炭の材料をとるために育まれてきた薪炭林と呼ばれ、人間によって下草刈りや伐採や枝打ちなどの手入れが行われていることによって維持されてきたものです。ギフチョウはこの日本の里地里山の環境にうまくすみ場所を見つけた昆虫といえます。

しかし、かつて数多くみられたこの様な雑木林(薪炭林)は、私たちの生活スタイルが変わり不要となってしまったことで、手入れが行われなくなりで急速に減少しています。残念なことにそれとともにこの環境にたよっていたギフチョウもまた各地で姿を消しつつあります。



よく手入れされた雑木林にみられるカタクリは、ギフチョウの蜜源になります。



### 粘着トラップ設置作業

生物多様性センターの標本収蔵施設では、IPM（総合的有害生物管理手法）による標本管理を実施しています。IPMとは、施設内の日常的な目視点検や定期清掃、温湿度管理、二酸化炭素ガスによる標本燻蒸、各種トラップによる有害生物の侵入防止モニタリングなどを複合して行う管理手法です。人体や環境に悪影響のある薬剤を使わずに、収蔵品の維持管理を行なうのが特長です。現在、生物多様性センターでは侵入生物防除とモニタリングを兼ねて、約160枚の粘着トラップと10個の誘因捕獲トラップ（フェロモントラップ）を施設内に設置しています。秋から冬にかけて、越冬場所を求めて多数のカマドウマが施設内に侵入します。カマドウマの死骸は標本害虫の格好の餌となりますので、気を抜かずに厳重なモニタリングを続けて行きます。

### センターの動き

- 9/24～9/28 ● JICA生物多様性情報システム研修
  - 10/ 1 ● モニタリングサイト1000里地調査第2回検討会
- 10/ 9～13 ● 浜松モザイカルチャー世界博2009イベント出展
- 10/29 ● 植生調査北陸ブロック調査会議
- 11/13 ● 植生調査中国四国ブロック調査会議
- 11/14～16 ● モニタリングサイト1000シギチドリ類調査検討会
  - 11/18 ● 植生調査北海道ブロック調査会議
- 11/16～17 ● NORNAC事例発表会・連絡会議
  - 11/24 ● 植生調査東北ブロック調査会議
  - 11/26 ● 植生調査近畿ブロック調査会議
- 12/ 7 ● モニタリングサイト1000 第1回沿岸域検討会
- 12/ 9 ● モニタリングサイト1000森林・草原調査一般サイト検討会
  - 12/10 ● 植生調査九州沖縄ブロック会議
- 12/10～11 ● ESABII 政府内会合
- 12/12～14 ● AP-BON推進のための国際会合
  - 12/18 ● 植生調査関東ブロック会議
- 1/ 7 ● モニタリングサイト1000 第2回高山帯検討会
- 1/14 ● 自然環境概況調査第1回作業部会
- 1/18～21 ● JICA研修「ベトナム生物多様性情報システム」
  - 1/30 ● モニタリングサイト1000シンポジウム
  - 1/31 ● モニタリングサイト1000推進検討委員会
- 2/ 4 ● モニタリングサイト1000里地調査第3回検討会
- 2/ 9 ● モニタリングサイト1000情報管理検討会
- 2/16～19 ● 植生調査 ブロック会議（東北・北陸・中国四国・九州沖縄）
- 2/22～23 ● 植生調査 ブロック会議（北海道・近畿）
  - 2/27 ● モニタリングサイト1000ガンカモ調査検討会

### 案内図



発行：環境省自然環境局生物多様性センター

〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田剣丸尾5597-1  
 電話：0555-72-6031 FAX：0555-72-6032  
 URL：http://www.biodic.go.jp/

※ニュースレターは下記URLからもご覧いただけます。  
 URL：http://www.biodic.go.jp/center/news/